

<課題>

- ・基礎的・基本的な計算力が身に付いていない児童がいる。
- ・記述式の問題では、無回答や誤答などが多く、考え方や解き方を説明する力に課題がある。
- ・作図の仕方や、面積や体積の求積方法の定着が十分でない。

<特に育成を目指す資質・能力>

- ・学年に応じた、整数、分数、小数の基礎的な計算力、作図する能力
- ・解き方や考え方を言葉や文章、図を使って説明する思考力・判断力、表現力等
- ・課題に取り組む際に、「分からない」で終わるのではなく、解くために、既習事項が使えないかと考える姿勢や態度

<指導方法・体制の工夫>

- ・少人数指導や学力向上推進ティーチャーを生かして、計算や作図などが苦手な児童に手厚く指導できるようにする。また、朝学習の時間に、学力調査やベーシックドリルなどの結果を基に、理解が不十分な内容に取り組みせたり、タブレットを使った個別学習で、児童一人一人にあった課題に取り組みせたりして、基礎的な学力の向上を図る。
- ・授業の中で、課題の解決方法を考える時間と発表する時間を設定するようにしていく。その際に〇〇を使えるように、数直線などの図や、表現する言葉・文章の型なども伝え指導していく。
- ・習熟度別指導を生かして、自分の進度に合った学習や自分の考えを文章や言葉等で表現しやすい環境を作り、表現する機会を増やすことで、主体的に考えようとする態度を育成していく。また、導入で既習事項を確認したり、前のノートや掲示物を参考にするよう声かけしたりすることで、前に学習した内容を使って考えを深める姿勢を身に付けることができるようにする。

<p><b>1年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的・基本的な計算力が身に付くように、「数の合成・分解」「たし算・ひき算」を授業内で繰り返し練習を行い、暗記で（ブロックや指を使わず）計算できることを目指す。</li> <li>・課題の解決を自分で考えられるように、今までに習った方法を使ったり、図、言葉、数直線などをもとに考えたりできるよう、個に応じて指導をする。</li> </ul>	<p><b>4年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・答え求めるだけでなく、図や定型文などを使い、そのやり方を説明する活動を取り入れることにより表現力の向上を目指す。</li> <li>・「倍」の計算や単位換算など、苦手な内容を中心に朝学習の時間や家庭学習などで、1人1台端末を使用して、習熟を図る。</li> <li>・教科担当や学力向上推進ティーチャーと連携を図り、休み時間や放課後の時間に個別指導を行い、算数が苦手な児童の基礎学力の定着を図る。</li> </ul>
<p><b>2年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な知識・理解が定着するように、朝学習において繰り返し九九や計算問題に取り組む。また、学級担任や専科、学力向上推進ティーチャーと連携を図りながら、必要に応じて個別指導を行う。</li> <li>・図を描いたり、かさを実際に測ったりする、体験的な学習を取り入れる。また、自分の考えを文章や言葉、図などで表す学習活動を行う。</li> </ul>	<p><b>5年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習の時間や家庭学習などで、1人1台端末を使用して、かけ算やわり算の筆算、小数の計算における小数点の処理などの基礎的な技能の習熟を図る。</li> <li>・図形の学習では、作図だけでなく、その概念や構成要素、その位置関係などを理解し、説明できるようにしていく。その際、具体物や端末を使ったコンテンツなどを通して感覚的に理解できるように指導していく。</li> </ul>
<p><b>3年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習や授業開始後の5分間を使って、基本的な四則演算や東京B・Dで苦手な既習単元の復習に取り組みせ、基礎的な知識・技能の定着を図る。</li> <li>・学力向上推進ティーチャーと連携して個別指導を行い、基礎学力の底上げを図る。</li> <li>・1人1台端末を活用して、個人の進度に合わせて学習を進めたり、繰り返し復習させたりする。</li> </ul>	<p><b>6年</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを表現したり、友達と考えを交流したりする場を多く設ける。</li> <li>・面積や速さなどの公式を覚えるだけでなく、問題を解くときに、どの数値を使えばよいか考えたり、その図形や速さの定義も答えたりできるように、発問を工夫する。</li> <li>・朝学習や家庭学習等で、1人1台端末を活用して基礎的な知識の習熟を図る。</li> </ul>